

法人理事会で種々対策を検討した結果、本学を広く一般社会に開放し、高校の卒業生（男女）を多数受け入れることになった。昭和60年4月電気工学科は電気と電子の2コース制、さらに翌年情報処理を加え3コース制となった。高校からの志願者増対策として、昭和63年4月に大学名称を産業技術短期大学に、また同時に鉄鋼工学科を材料工学科に改称した。さらに平成5年4月に電気工学科は、電気工学科（電気と電子の2コース制）と情報処理工学科に改組された。学生数も現在臨時定員増を含め、材料50名、機械120名、電気80名、情報100名、構造40名計390名となり、高校生の志願者数も漸増し発展的過程をたどっている。

さて、本学の他大学にみられない大きな特色は、社会人学生（企業派遣生）約40%と高校新卒学生約60%との共学にともなう教育上の効果が得られることである。すなわち、企業派遣生は数年乃至20年近くの社会経験を経て入学しているから、当然

のことではあるが目的意識や問題意識が明確で、勉学はもちろんのこと総ての活動に対して積極的に真剣に取り組んでいる。2年間の学園生活において、高校新卒学生はこれらの企業派遣生から良い感化を受けて、一般に勉学態度は真面目であり、また社会人としてあるいは企業人としての心構えについてもある程度学んでいるようである。したがって彼らの就職先企業からは好評を得ている。

一方、企業派遣生は彼らと共に学ぶことによって、将来職場において部下として、あるいは協力者としてともに仕事することが予想される高卒新規採用者の習性、物の考え方、あり方等について理解が得られるし、さらには彼らと行動をともにすることによって青春を取り戻し、若返りの効果も取得している。

このように多少異質な2つの集団を同じ教場で教育することには、若干の問題が存在するけれども、上述のように両者が協調し、融和することによって得難い効果がもたらされている。

企業紹介

21世紀に向けた新しい製鐵所づくり

姫田 昌孝

（新日本製鐵(株)広畑製鐵所）

当社広畑製鐵所は関西・瀬戸内圏のほぼ中央に位置する姫路市にあり、周辺では本四架橋、山陽自動車道、中国縦貫道等の交通網が発達し、また、瀬戸内海という運搬の大動脈があります。一方、世界最高レベルの大型放射光施設を核とした学園都市的な構想として、姫路市を母都市とする西播磨テクノポリスの建設が進んでいます。

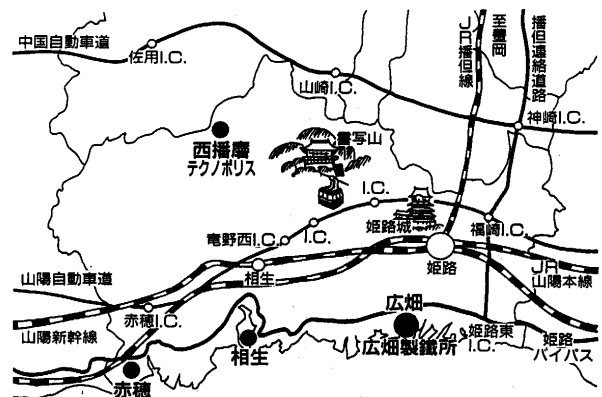
このような恵まれた立地条件のもと鉄事業50余年の歴史の中で、当所は複合経営を含めた薄板専門製鐵所として新しく生まれ変わってきました。

製造プロセスという点では、世界で初めて冷延から調質までを連続化したC.A.P.L.を昭和57年にスタートさせ、さらに、昭和61年に酸洗も組み込むことにより、完全連続冷延鋼板製造ライン（FIPL）を完成させました。また、昭和59年に操業を開始した熱延工場には画期的なベアクロスミルを設置しています。そして、最近では時代のニーズを先取りして高炉法によらない鉄作りの新しいプロセスとして、小ロット対応、リサイクル対応等の可能性も持った冷鉄源溶解法を初めて採用しました。

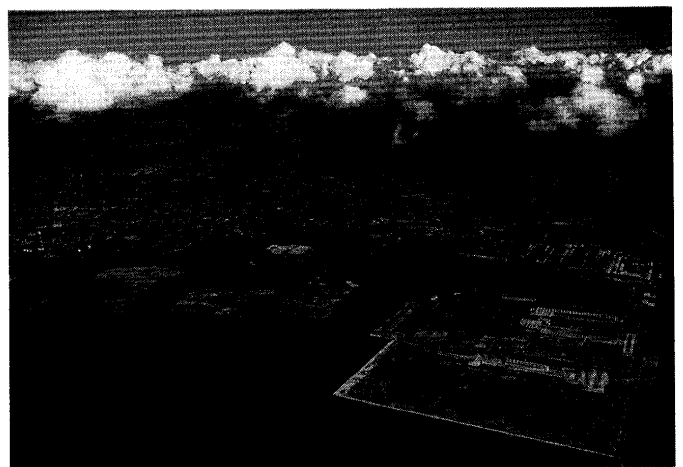
また、新しい企業（日鉄建材）の誘致やダイセルとの合併会社等、複合経営の足掛かりを築き、西播磨テクノポリスとの連携を進め、姫路を中心とした技術の拠点を作りつつあります。

新商品開発については伝統的にオリジナリティーに富み、より社会ニーズに適合した開発を進める為に現場と密着した開発を心掛け、箇所研究所一設備技術一ライン部門が一体となって新商品を生み出してきました。製造現場と研究所との関係がうまく機能した結果、薄膜有機鋼板と不溶性陽極技術、磁区制御による低鉄損材料等続々と生み出してきました。

現在、広畑製鐵所は『拓こうリライアブル新広畑～一人ひとりが推進者』のスローガンを掲げて、全所員一丸となって、新しい製鐵所づくりに邁進しています。



広畑製鐵所近隣の図



広畑製鐵所全景